

第9回 DAAS運営委員会 議事要旨案

(1)日時: 2009年3月13日(金) 午後2時~4時

(2)場所: 財団法人ベターリビング 1階 BL102会議室(〒102-0071 東京都千代田区富士見2-14-36 FUJIMI WEST)

(3)出席者(順不同 敬称略)

運営委員長:三塩(株式会社日本設計)

副運営委員長:南(慶應義塾大学)

運営委員:早川、安生暁(株式会社日建設計)、有馬(積水ハウス株式会社)、真木(社団法人日本建築学会)、笠(金沢工業大学)、市川(社団法人建築業協会)、戸谷(社団法人日本建築士事務所協会連合会)、鈴木、早川(社団法人日本建築士会連合会)、池田(社団法人日本建築家協会)、本多(株式会社山下設計)、伊平(株式会社久米設計)

事務局:高見(国土交通省国土技術政策総合研究所)、井出(住宅・建築・都市政策支援集団)、武藤

(4)配布資料:

- 資料1 DAAS Web サイトの改修・リニューアルについて
- 資料2 -1 企画部会ビデオ作成WGの設置について(案)
- 2 特集企画 ビデオ掲載報告・撮影予定
- 資料3 -1 「優良住宅・建築物記録の作成」事業の作業内容
- 2 費用内訳
- 3 「優良な住宅・建築・街並み及びその記録の保全に関する懇談会」開催案
- 資料4 -1 エスエス東京との打合せ内容の対応について
- 2 株式会社エスエス東京 DAAS 打合せ議事録
- 資料5 デジタル卒業設計大賞 2008 懇親会報告

(5)議事

■審議事項

[議案1]

資料1に基づき、DAAS Web サイトのリニューアル・機能改善について、運営方針を事務局より説明したところ、原案どおり承認された。

また、以下の説明が口頭にて追加された。

(事務局)

- ・ユーザーのニーズ、記録作成事業の活動を踏まえデータベースの詳細な機能追加を検討している。
- ・成立当初、DAAS の活動が明確でなかったため、配慮に欠けた部分が散見される。公開から2年以上経過したわけで、トップページのデザインやデータベースへの収録方法を見直す時期に来ていると考えられる。特に、新たな資料提供に対して更新をかけるプロセスが煩雑になっているため、まずは簡便に様々な資料の提供・更新ができる機能の追加を考えている。
- ・また運営委員会の中で収録された資料の見せ方など意見をいただきたい。今後、具体的な相談を進めさせて頂きたい。
- ・作業の柱として、管理が簡便になること、検索をしやすくこと、資料提供者からの資料提供を受けやすくすること、という3つを挙げ、議案の提案としたい。

以下質疑

- (運営委員長) この作業についての予算を事務局に確認をした。全体予算として会費と補助金事業分とがあるのだが、そのうち、ウェブ機能更新に500万程度、ウェブデザインの改修に150万を充当していこうということである。ウェブの3つの目的としては将来を見込んで、という要素もあるかと思う。事務局管理を簡便にすること、更新のスピードをあげようということがポイントかと思う。意見等があれば。
- (早川委員) 資料提供者というのがでてくるが、どの程度の範囲を想定しているのか。
- (事務局) 難しいところではあるが、この資料を作成した時点は個人の写真家の方を想定して作成している。写真家の方が自身の作品をDAASの上に載せたい場合、すでに収録されている建築物とリンクをされれば建築物から写真家の作品へリンクされる。それが出来ない場合「個人写真家」というところから写真に飛ばないといけない。個人写真家の場合はそのようなことを想定していた。また今回ラージファームの方々に資料提供や褪色補正をさせて頂いた。保全はしたいが公開はしたくないという場合、資料提供者として提供して頂いた方に制御をかけて頂くことも考えておきたいと思っている。管理を全てお任せするというのではなく、機能として備えておきたいということである。それは資料提供の方がどういった管理を望まれるかによって変える、という意味で選択肢を増やしておきたいということである。
- (運営委員長) 資料提供者が、キーワードやパスワードで入れると言うことで、誰でも闇雲に入れるわけではない、ということだろうか。
- (事務局) アマチュアの建築の好きな方などが何でもよいからここに収録できるということとは違い、例えばあるクライテリアの中で、表彰建築、または、写真家でもある程度評価が有る方を対象とした資料提供者ということになる。
- (早川委員) データをそれぞれアップできるということになると、データの規格、フォーマット等バラバラなものでも成立するものなのだろうか。
- (事務局) フォーマットにも様々な意味があるが、画像のフォーマット、例えばJPEGなどというのは基本的には問題がないと考えている。ある程度変換がかけられるためである。よくあるフォーマットは20種類程度、CADでも何種類かあるように、相互に変換ができるので、そういった部分は含んでおきたい。またフォーマットで問題となるのはメタデータと呼んでいる、建物の諸元情報についてである。雑誌によって掲載されている情報も異なっていることもあり正規化するのは難しい。現在は、基本的には全ての情報を「足す」という方向で作成することになっている。そういった意味でメタデータを提出して頂く場合の、フォーマットの違いも含めていけるようにしたいと考えている。ただ、共通化ができるのが理想であるので、このようにすれば良いという議論も併せて進めたいと考えている。
- (運営委員長) 初期に登録したメタデータの表現がバラバラであったという問題点は、人海戦術でしか解決できず、かなりのアルバイトを投入して整理をしたということだが、このずれや揺れについては人によるところであり、機械化しても限界がある。ある期間ごとに見直し作業・整理が必要である、というのが実感である。沢山の資料が集まると言うことになれば完全に揃えるというのは難しい。新建築からの最初のデータですらそのような状況であり限界がある。ただ、事務局の「足す」というアイディアは、無理に判断をし、表現を変えるということにはならないため、安全な対応だと判断をする。新建築のメタデータの修正はそのように手をいれている状況である。

[議案2]

**資料2-1,及び資料2-2に基づき、企画部会ビデオ作成WGの設置について、以下のよう
な説明及び意見交換があり、それを反映して進めていくことが了承された。**

(事務局) 第3期のWGとして、事前に積水ハウスの有馬委員、三塩運営委員長に内々のお願
いをしているところである。もしご了解頂けるようであればビデオの企画をお願いしたいと
考えている。第3期のご了解を頂ければ、第4期の分も先行して準備をしたいとも考えてい
る。

(事務局) 基本的にはDVDのパッケージを作成し関係者に配布するとともに、DAASのウェブで
公開させて頂きたい。これまでのビデオでアクセス数が最も高いものは榎理事長のビデオで
あり約12,000件のアクセスがあった。会員登録しないと見られないところにビデオがある
ため、会員登録の増加にも影響する。会員数は現在2,200人程度である。後世に残していく
という観点で誰にどんな話を聞かかということを考えて時、事務局内だけでは偏った人選に
なることも考えられる。建築業界全体を考えて、それぞれの業界団体、或いは企業内の「こ
の人の建築に対する考えや言葉は、本人の言葉で残しておくべき」というものをDAASのコン
テンツとして収録しておきたい、それがビデオ作成WGの発端となっている。年間2~3
本ということではあるが、新しい企画で撮影したいという意見を出して頂ければ、様々な方
法で撮影をしていきたいと思っているので、是非忌憚のないご意見を頂きたい。これまでの
ビデオの掲載報告、今後の予定が資料2-2にあるが、池原氏、難波氏のインタビューにつ
いてはこの会でも後ほど紹介させて頂きたい。ビデオ撮影では、(編集後の映像には出てこ
ないが)撮影時に興味深い話を伺うことができる。そのデータも全てDAASに収録している。
後々インタビューを元に研究をされたい方に対する映像データの提供も併せて考えていき
たいと思っている。このような様々な内容を含めて今回提案をさせて頂いた。

(運営委員長) 事務局からは既に有馬委員にご連絡をいれている。有馬委員には快諾を頂いた
ということ良いだろうか。

(有馬委員) 面白い企画だと思っている。

(運営委員長) 有馬委員には、積水ハウスというハウスメーカーの立場で参画を頂いている。
現在、インタビュー企画は世に出た建築家を追ってしまいがちであるが、ハウスメーカーの
草創期の方々にも様々な方がいるので、話を伺えないかと思っている。まだ打合せの段階で
はないが、設計事務所以外からWGに参画頂いて、新たなジャンルの方をご紹介頂きたいと
いう考えもある。それ以外のアイデアも持ち寄って頂き、少し枠を広げたいという思いも
ある。その為に有馬委員へお願いをした。また、私の名前が挙がったが、当社の元社長 池
田武邦ならば、話をする機会があるので、建築家シリーズということにはなるが撮影したい
と考えている。第3期の9月迄の間に作り上げるというスピード感で進めたいと考えている。
有馬委員の考えも伺いたい。

(有馬委員) ハウスメーカーではあるが、工業化認定住宅の設計者をご紹介するわけではない。
皆さんが当然ご存じの著名な先生も工業化認定住宅の初期に関わっていらっしゃる方が沢
山いる。私としては、当然一つはそういった先生ではどうかと考えている。元建築学会の学
会会長など。若い方でこれから活躍される方も、興味深いインタビューとなるかと思うが、収
蔵していくなかで、ご年配で早めにお話を伺いたい貴重な先生は沢山いらっしゃるため、そ
の辺りも考えてはどうかと思っている。

(笠委員) この記録というのは非常に良いと思うが、電気学会でもオーラルシステムというビ
デオではないがインタビューをしている。電気技術全体、民間でサーベイをしてリストを作

成し、一つのパースペクティブを作っている。建築界も住宅産業なども重要であると考えるので、ジャンル別でどういう方にインタビューするかというリストが一つと、デザイナー、建築家などの優先順位でリスト作りみたいなものをしてはどうだろうか。または構造技術者で、なども考えられる。行き当たりの人選でなく、リストを作っておくということがよいのではないだろうか。

(事務局) 建築家リストは作成をしており年齢別で作成しているものが手元にある。建築家だけでなく幅を広げると言うこともあるが、残念ながら1年に2本であると言うことと、DAASが対象を絞り価値判断を加えるというのは体制がとりづらい。オーソライズ委員会の様な形をとっていないためである。そのため運営委員会でご意見を頂く、或いはDAASのあり方として各団体から来て頂いている方にお任せをし、その団体が選んだ方という線引きをしないと、ということで今回の提案をあげている。運営委員会の各会員方で人選していただくような線引きができないか、ということである。今のところ価値判断を加えることは、現在のDAASの体力を考慮しては控えている。学会のように企画して委員会を設けてということは理想ではあるがそこまでは現段階では実現できない。今回ご推薦の委員の方には快諾頂いたのであるが、次期以降、もしお引き受け頂くという観点で、ご意見を頂きたいと思っている。

日建設計は林先生の名前もあがっているが、お引き受け頂くというイメージは湧くだろうか。

(早川委員) 今この場ではイメージは湧かない。WGが2, 3名ということだが。企画として2, 3名の方が集まり、事務局とアイデアを検討し運営委員会で報告するというのは良いと思うが、実際にインタビューの企画や段取りをWGのメンバーが実際どこまでやっていくか、というのはどうだろうか。

(運営委員長) 確かに提案はできるが、自分でやるとなるとどこまで話が引き出せるか、考えると難しいかもしれない。今まではインタビューもインタビューにも慣れている新建築社の橋本氏にお願いをしていた。私が今回引き受けた理由は、インタビューとして顔がでなくても、池田であれば話を振ることや昔話を引き出すことができるかもしれないという思いもあったからである。実は正直申し上げるとWGには、企画だけにとどまらず、撮影クルーを連れて行って本人の前でお願いをし、1~2時間の撮影し、編集後、ウェブにupするということまでを協力頂きたいと言う思いが事務局にある。推薦をうけた私でなくても、当社で池田と近い者がいて、インタビューとして相応しければ担当者として出て行くということも考えられる。どういった人がいけばよいか、組み合わせを含めて考えることは当然有る話だと思う。承認が頂けるということであれば、まずはこの企画で進めてみたいと思っているのがだろうか。

(事務局) 企業だとイメージが湧くかもしれないが、市川委員のBCSでお願いをした場合、イメージは湧くだろうか。

(市川委員) 湧かないだろう。湧かないというのは何を語らせるかと言うこと。創作活動やある建物にまつわる話など。例えば、何らかのコンペで代表者として出て、独立していると言う方は、それなりに作品やキャリアも同じようなものがあるが、それぞれのチームで作っていると若い方は名前が常に作品にでるとということもない。BCSであれば、設計者や、ものを作る観念と、で選ぶとすれば、設計施工という中で、何かでつながりを持ち、人を中心に語らせると言うことでは、永続的に何作品かを縦にとって、横軸でものを作ってというイメージをすると人選は難しい。

(事務局) せっかくですのでゼネコンのメンバーから、こういうウェブにメッセージを何らか送って頂きたいと思う。

- (市川委員) それは理解をするが、メッセージのあり方、何を語らせるか、所謂「ものづくり」ということについてだが。その時に誰を、ということを考えてなかなか難しいと思う。
- (事務局) 今日ここでということではないので、イメージを模索して頂けるとありがたい。
- (早川委員) インタビューの場合、その中で話を聞き出し編集までということだが、運営委員のメンバーがそこまでやるということになるのだろうか。
- (事務局) 企画の部分で共有したいという趣旨である。
- (早川委員) 企画は一つそうだが、先ほどの話としては、インタビューをし、仕上げるということになる。そうすると皆さんはイメージがしにくく受けにくくなるのではないか。企画の段階でそういう話をして、「企画だけで終わっては」という話がでるということであれば理解するが、当初よりそこまでの作業を踏んでということになると受けにくいのだと思う。来年2、3人の中で実際にやれと言われてもどうしようか、ということになるのではないか。段階的に進めて行くのか、或いは、やり方というのはそれぞれあると思うが。
- (事務局) ビデオ制作会社は慣れているので、企画をして頂く方の負担がどのくらいかということに寄ると思う。人を決め、インタビューを決め、制作会社と進めてできる、ということか、むしろ引き受けたからには中身の編集まで、ということになるか、その辺りは模索ではある。
- (事務局) 今の撮影の手順を説明すると、人選をしたあとインタビューする先生に連絡をとり、ビデオの説明をし、撮影が可能かどうかを伺う。その後、インタビューと撮影会社と事務局で撮影をする方の所へ伺い、どのような話を伺うか、打合せをさせて頂いている。これまでのインタビューは慣れていたため、その後はインタビュー内容の素案を作り当日を迎える、という感じであった。打合せは企画を含めて多くて2・3回、実際に撮影する先生との打合せが1回、その後撮影当日という程度で動いている。その為企画の内容にも寄るところであるが、経験がないところについては事務局でサポートさせて頂くという心積もりである。その中で、どういった方の話を残したいか、どういった方を撮影したいか、ということで皆さんの撮りたい方を企画であげて頂くということが趣旨である。サポートや先生へのアプローチについては、出来る限り事務局でも考慮したいと思っている。
- (運営委員長) 事務局もサポートをすることなので、まずは企画、またジャンルもどういった幅があるかということも決めながら進めたいと思っている。有馬委員、また当初の滑りだしについては、異議がないようであれば、進めてみたいと思う。
- (有馬委員) サポートして頂ければ。好きなように作成して面白くないものが出来、アクセス数が減ってしまう、ということでは困るため、今まで通りサポートして頂ければと思う。

[報告]

・「優良住宅・建築物記録の作成」事業の作業内容と収支執行状況について報告を行い、本事業に関する懇談会「優良な住宅・建築・街並み及びその記録の保全に関する懇談会」開催案内と懇談会への参加呼びかけを行った。

・記録作成の事業を進めるにあたり、写真の権利者である撮影会社のエスエス東京より問い合わせがあり、本事業の説明を行った。その報告、及び、今後同社から収蔵に関する協力を得るための対応方針案を説明した。それについては以下のような意見交換があった。

(事務局) クライアントはゼネコンであるが、公的な資料提供について、ゼネコンの同意が得られないとは思わない、ということであった。

(市川委員) 基本的に設計者、施主、等それぞれ消極的な立場をとっているが、原則的には権利を持っている人は誰なのか権利者に断らなければならない、というのは当然ある。ゼネコンが必要なところに情報をだすということについて、自分から敢えてだすという積極性はないが、だすことについて拒絶するという態度ではない。ただし、知的所有権などの権利で明快な指標、マニュアルがないため、基本的に「相談があれば個別に対応する」と言わざるをえない。BCS 賞でも受賞した作品を DAAS に収録するということを応募条件にいったため、それについては、問題はないが、受賞作品そのものの関連資料が有る場合、そこまでを提供するというのではない。エスエスが所有している写真やリストがある、ということでそれを全て収録するのか、フィルターで収録するものを精査するか、どういったきっかけで収録の提供を言い出すかということのルールがはっきりしない。ゼネコンが竣工写真でエスエスに依頼するケースはあるが、どこかで発表する場合も施主や設計者に断りをいれている。マニュアルが公になっていないので公益性があるものについてどのようにするか、DAAS のような使用についてはどうするか、というような大きなルールがない限りは常に一件一件了承をとらなければならない。エスエスが撮影者、クレジットの問題など、そこまで要求するのか、ということも疑問である。そのマニュアルさえ決まれば、ある程度の打合せはできる。

(事務局) 今回のケーススタディとして設計者に依頼をしたが、その中にエスエス東京の写真があった。設計事務所は施主やクライアントに DAAS に写真を掲載する了承は必須であり、また写真事務所の了解を得なければならない。写真事務所はゼネコンがクライアントであるため、その了解がないとできないということだった。全体にどういう関係で了解を得るか。目的を明確にすることによってどれだけ協力できるか、ということ。

(市川委員) 公益性などの大上段があって、それに使用を限定したときは少なくともこの手続きは不要など。

(事務局) 全体の流れを把握できたのではないかと思うので、そのパッケージを持って、相談をさせて頂きたいと思っている。

(市川委員) BCS 賞についても新建築社に写真の権利を整理して知らせて欲しいと依頼をしたことがある。公益性だといってもその問題は残る。

(事務局) 残るだろう。業界の中のコンセンサスを作らなければならないというのが以前からの課題であるかと思う。出来れば、シンポジウムなどを開くなどのやり方も考えられるのではないか。

(真木委員) 最近の話であるが作品選奨で、住宅を雑誌に掲載したところ施主の方より、誰が公開する許可をしたか、私はしていない、取り消すようにという猛烈な抗議があった。その辺りもこれから検討されるときに権利ということていくと解決しなければならない点だと思う。

(市川委員) 建築主には皆了承を得る。

(早川委員) 今回の DAAS への資料提供についてのリストアップをしたが、クライアントから了承を得られないと基本的にはデータを提出するかしらないか、提出しても公開するかしらないかという話を全て確認している。

(笠委員) JIA の場合も、住宅についてはプライバシーの問題があるので、図面については公開ができないことが多い。

(事務局) 外観写真はたとえ住宅あっても位置の特定ができない、表札の名前がない、という一定の条件をクリアしていれば、所謂出版の自由にあたる。そういった資料を公開することについて基本的に法律は問題がない。ただし、そういったことをするとオーナーとの関

係が悪くなるという別の問題が出てくる。その線引きは、繊細な問題である。何らかの基準を作るなどしないと、三すくみのまま先に進めない状況である。せつかく、このように皆さんに集まって頂いているので、各団体、各設計事務所、ゼネコンも、業界横断的な取り組みが DAAS だと思っているので、その中でうまくできることをやっていきたいと考えている。

(竺委員) 建築そのものの著作権と概念上の著作などがある。公共建築でも全ての権利をださなければいけない。建築家に著作権があるというのも実際には無視されている。

(事務局) 今は大分丁寧になっている。以前は全ての権利を、ということで済ませていたが、著作権が著作者にあるのは自然の権利なので、某権は国に、某権は残すなど整理されるように公共発注でもなってきた。それで全ての権利が整理されている、ということでもないのだが。

(竺委員) 全体のコンセンサスをとることが必要である。

(事務局) 少なくとも今回は我々として収蔵作品を増やしたいという目的ですすめており表彰作品について、どのように関係者に理解をして頂くかというのは一連の関係者のパッケージを作成し相談させて頂きたい。

(運営委員長) 今回、収蔵について早川委員からきっかけを作って頂き、エスエス社で打合せをさせて頂いたこと、また思わぬ所からコンテンツの提供の申し入れがあったということについては前進したという実感もあったのでご報告をさせて頂いた。

- ・ **デジタル卒業設計大賞 2008 の受賞作品の紹介、及び、懇親会についての報告を行った。** DAAS ウェブにて作品掲載が完了していること、また懇親会の動画も掲載される予定であること、また、2009 年度は難波氏に講評をして頂く予定であることを報告した。
- ・ **DAAS インタビュー2作品、池原氏、難波氏のビデオ完成の報告と、上映を行った。** 4月下旬を目処に DAAS ウェブに掲載される予定である。